



自分たちが地域のシカ対策のモデルに！！

～南あわじ市神代社家集落の取り組み～



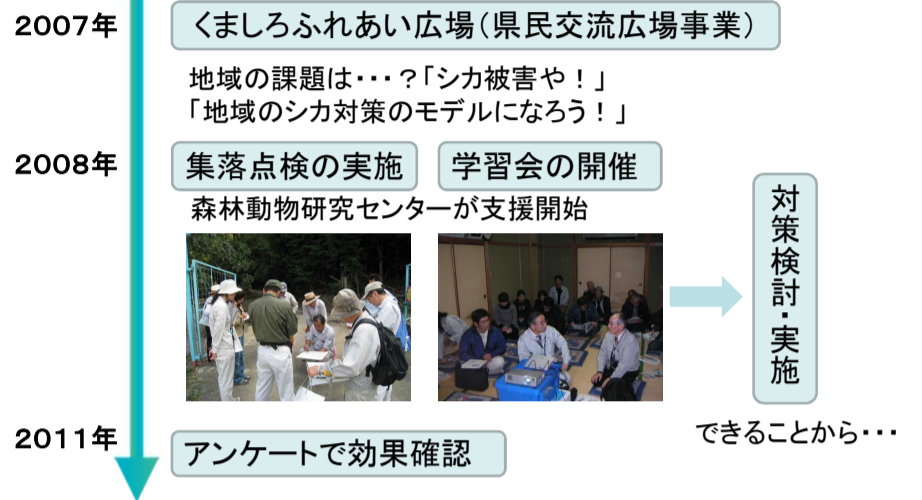
地区の概要

全戸数	28戸
農作業従事戸数(家庭菜園含む)	28戸
専業農家	25戸
農地面積	20ha
生産目的	ほぼ販売用
集落営農	無
生産組合	無



主な作物は水稻、タマネギ。シカが多い地域で、年々シカの被害が深刻化していた背景があり、集落一丸となったシカ対策に取り組んでいる。

これまでの対策



ここに注目!



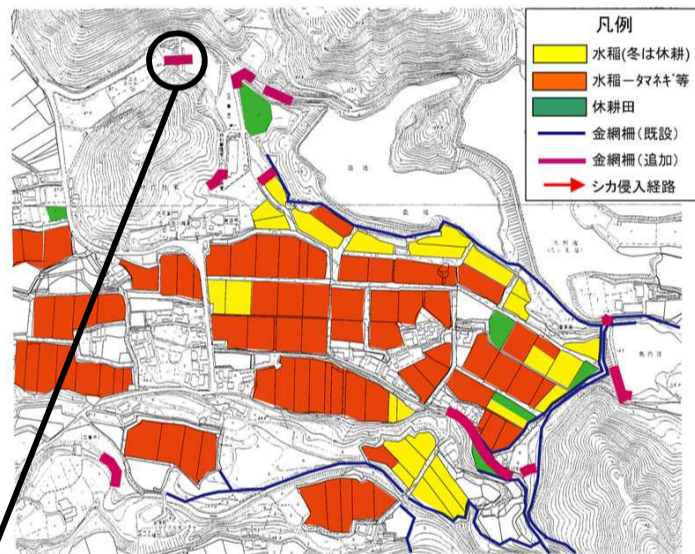
集落点検の結果をマップ化して対策を検討

① 「社家保全隊」による防護柵管理の徹底

- 年2回の草刈り(全戸参加)
- 日常の点検で補修箇所が見つければ「保全隊」に連絡



封鎖できる箇所は門扉を設置、意識を徹底!



② 侵入経路を特定して柵を追加



③ 集落内の無意識の餌付けをなくす



無意識のうちにシカを餌付けしている野菜くずなども、住民それぞれが意識してなくすよう努力しました。写真はタマネギのくずを捨てていたのが、きっちり埋めるようになったところです。

地域の意欲を継続させる!



大変なことが多い獣害対策の中に、「シカ肉BBQ大会」や「青空市」「くましろおもっしょ祭り」など神戸大学の学生さんも交えた楽しい催しを継続して開催することにより、地域全体の活気があふれるようになりました。

他地域への波及効果

「環境フォーラムin淡路島(2010年)」や但馬での獣害対策研修会(2012年)で、先事例集落として発表する機会も。

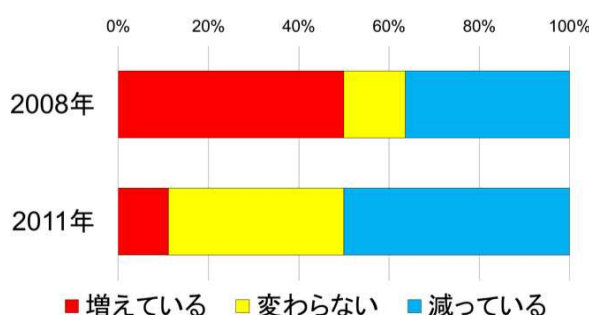


自分たちの努力の成果を皆さんに知ってもらうことで、さらにやる気が出てくるようになりました。

最近の被害状況—地区へのアンケート結果より

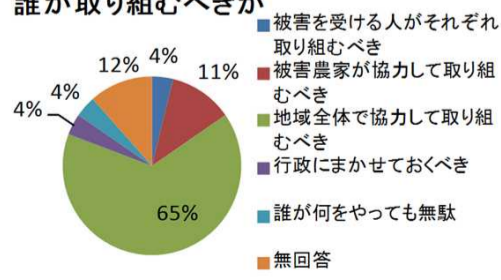


ここ数年でシカやイノシシの被害は激減しました。また、獣害対策を地区全体で取り組むようになって、集落全体のムードが良い方向へいっています。他の運営にも進んで参加してくれる人が増えてきました。



Q. 最近の野生動物による被害の傾向は? (2008年と2011年の2回の調査結果の比較)

誰が取り組むべきか



Q. 被害対策に誰が取り組むべきですか? (2011年の調査結果)

センター講評

シカ密度の高い諭鶴羽山の麓に位置し、常に山側からのシカの攻撃にさらされている集落ですが、みんなで協力して農地と山の境に金網柵を設置し、維持管理のため「社家保全隊」という組織を作って日常的な点検と補修、草刈りなどを行っています。また、被害マップを作成して対策を検討、柵の追加や集落環境整備に役立てています。神戸大学の学生を交えた意見交換会や追い払い研修など、楽しい催しを継続して開催することにより、獣害対策を楽しみながら地域興しにつなげ、自分たちの成果を各地で発表するなど、地域の活性化に成功しています。

